

がん性痛治療 ～巧への道～

【オピオイド鎮痛薬換算表】

成分名	商品名	投与量(単位: mg)					
モルヒネ	MSコンチン錠、パシーファセル、モルベス細粒	-	20	30	60	120	180
	オプソ内服液、モルヒネ塩酸塩錠(*レスキュー薬の1回量として)	-	5	5	5~10	10~20	20~30
	アンベック坐剤	-	10	15	30	60	90
オキシコドン	オキシコドン徐放錠、オキシコドンTR錠	10	-	20	40	80	120
	オキノーム散(*レスキュー薬の1回量として)	2.5	-	2.5~5	5~10	7.5~15	12.5~25
フェンタニル	フェンタステブ	0.5	-	1	2	4	6
	ワンデコロバッチ	-	-	0.84	1.7	3.4	5
	フェンタニル3日用テープ、デコロテップMT/バッチ	-	-	2.1	4.2	8.4	12.6
タベンタドール	タベンタ錠	50	-	100	200	400	-
リン酸コデイン	コデインリン酸塩散・錠(*12歳未満の小児禁忌)	90	120	180	-	-	-
トラマドール	トラマールOD錠、ワントラム錠(*12歳未満の小児禁忌)	-	100	150	300	-	-
メサドン	メサベイン錠	-	-	-	15	15	30
ヒドモルフォン	ナルサス錠	-	4	6	12	24	36
	ナルラピド錠(*レスキュー薬の1回量として)	-	1	1	2	4	6

*レスキュー薬：疼痛時に臨時に追加する臨時追加投与薬のこと。経口投与では1日量の10~20%相当の速放性製剤を用いる。

フェンタニル口腔粘膜吸収剤	アプトラル舌下錠(100・200・400μg)	開始100μg、その後至適用量決定。1日4回まで、前回投与から2時間以上空ける。1回上限800μg。
	イーフェンバツカル錠(50・100・200・400・600・800μg)	開始50または100μg、その後至適用量決定。1日4回まで、前回投与から4時間以上空ける。1回上限800μg。

非オピオイド鎮痛薬の副作用対策

■悪心・嘔吐対策(★1~2週間で耐性化あり)

- 下記1~3のいずれかまたは併用を考慮
1. バミジン錠5mg 1回1錠 1日3回
 2. メトクロプラミド錠5mg 1回1錠 1日3回
またはドンペリドン錠10mg 1回1錠 1日3回
 3. トラベルミン配合錠 1回1錠 1日3回

★耐性化あるため、1~2週間後に減量・中止確認

■便秘対策(★耐性化なし)

- 下記1~3のいずれかまたは併用を考慮
1. スインブロイック錠0.2mg 1回1錠 1日1回
 - ★下痢、腹痛等の副作用に注意！
 2. 酸化マグネシウム錠330mg 1回1~2錠
1日3回 自己調節可
 - ★長期服用、腎障害、高齢者では高Mg血症注意
 3. センソシド錠12mg 1回1~2錠 1日1回
または ピコスルファートNa内服液0.75% 1本
1日1回 1回10~15滴 自己調節可

上記を十分量使用しても便秘が改善しない場合など、

- 以下の併用を考慮
4. 新規便秘治療薬
 - ・アミチーザカパセル24μg 1回1個 1日2回
 - ・リンゼス錠0.25mg 1回2錠 1日1回 食前
 - ・グーフイス錠5mg 1回2錠 1日1回 食前
 - ★薬剤性便秘に対する有効性・安全性不明
 - ・モビコール配合内服剤 1回2包 1日1回(成人)
 - ★小児に適応あり(*詳細は添付文書参照)
 - ★約60mLの水で溶解して服用
 5. その他
 - ・テレミンソフト坐薬10mg 1回1個 1日1~2回
 - ・新レシカルボン坐剤 1日1~2個
 - ・ツムラ大黃甘草湯1丸顆粒2.5g 1回1包 1日2~3回
 - ・ツムラ大建中湯1丸顆粒2.5g 1回1~2包 1日2~3回
 - ・ケンエーG浣腸液50% 1回10~150mL など

非オピオイド鎮痛薬導入例

■アセトアミノフェン(AAP)

アセトアミノフェン錠300 1回2錠 1日4回
(1回300~1000mg、1日最大4000mg)

■非ステロイド性消炎鎮痛薬(NSAIDs)

1. ロキソプロフェンNa錠60mg 1回1錠 1日3回
 2. セレコックス錠100mg 1回1~2錠 1日2回
 3. ナイキサン錠100mg 1回1~2錠 1日3回 など
- ★AAP+NSAIDs併用可
★NSAIDs：腎障害、胃腸障害などに注意！

■NSAIDs投与時の消化性潰瘍予防

1. H₂受容体拮抗薬
ファモチジンD錠10mg 1回1錠 1日2回
2. プロトンポンプインヒビター(PPi)
ランソプラゾールOD錠15mg 1回1錠 1日1回 など

オピオイド鎮痛薬導入例

■トラマドールから開始する場合

トラマールOD錠25mg 1回1錠 1日2回
 処方薬：トラマールOD錠25mg 1回1錠 疼痛時頓服
 ★1日4回 100mg/日を超える場合、アドヒアランス等を考慮し、ワントラム錠100mg 1日1回 1回1錠へ変更可(最大：3錠/日)

■ヒドモルフォンから開始する場合

ナルサス錠2mg 1回1~2錠 1日1回
(*添付文書上、4mg/日開始)
 処方薬：ナルラピド錠1mg 1回1錠 疼痛時頓服

■オキシコドンから開始する場合

オキシコドン徐放錠5mg 1回1錠 1日2回(12時間毎)
 処方薬：オキノーム散2.5mg/包 1回1包 疼痛時頓服

■モルヒネから開始する場合(★特に、経管投与)

モルヒネ細粒(10mg/包) 1回1包 1日2回(12時間毎)
 処方薬：オプソ内服液5mg 1回1包 疼痛時頓服

★処方薬：1時間以上空けて複数回服用可

【オピオイドスイッチ（投与経路・製剤の変更例（一部））】

<p>モルヒネ徐放性製剤(12時間毎)・モルヒネ坐剤・オキシコドン徐放性製剤からフェンタニル貼付薬へスイッチ</p> <p>先行薬 12時間後 その後中止</p> <p>先行薬 8時間後 その後中止</p> <p>同時に貼付</p> <p>フェンタニル貼付薬</p>	<p>モルヒネ徐放性製剤(24時間毎)からフェンタニル貼付薬へスイッチ</p> <p>先行薬 12時間後 その後中止</p> <p>同時に貼付</p> <p>フェンタニル貼付薬</p>	<p>モルヒネ持続皮下注・持続静注からフェンタニル貼付薬へスイッチ</p> <p>経過を見ながら減量または中止</p> <p>6~12時間後</p> <p>同時に貼付</p> <p>フェンタニル貼付薬</p>
<p>フェンタニル貼付薬から他剤へスイッチ</p> <p>除去(中止) 12時間後</p> <p>同時に投与</p> <p>モルヒネ徐放性製剤(12時間毎)、モルヒネ坐剤、モルヒネ持続皮下注・持続静注、オキシコドン徐放性製剤</p>	<p>フェンタニル貼付薬からモルヒネ徐放性製剤(24時間毎)へスイッチ</p> <p>除去(中止)</p> <p>同時に投与</p> <p>モルヒネ徐放性製剤(24時間毎)</p>	<p>モルヒネ持続皮下注・持続静注から他剤へスイッチ</p> <p>経過を見ながら減量または中止</p> <p>1~2時間後</p> <p>同時に投与</p> <p>モルヒネ徐放性製剤(24時間毎・12時間毎)、モルヒネ坐剤、オキシコドン徐放性製剤</p>

Check point !

- ✓ 痛みの原因や痛みについて評価しましょう！
- ✓ オピオイド鎮痛薬などの処方忘れはありませんか？
- ✓ 定時投与薬またはレスキュー薬の投与量は適切ですか？
- ✓ 副作用に困っていませんか？

困った時は、院内緩和ケアチームにご相談下さい！

【痛みの評価方法（Numerical Rating Scale : NRS）】

